

一般社団法人日本粘土学会 2022 年度第 4 回理事会議事録

日 時：令和 4 年 8 月 13 日（土）15:03～16:50

会 場：Zoom 会議室

出席者：理事（23 名）小暮敏博、中川昌治、千野裕之、佐藤 努、會澤純雄、井出裕介、伊藤健一、上原元樹、小口千明、黒田義之、笹井 亮、寒河江竹弘、地下まゆみ、鈴木正哉、鈴木康隆、高木慎介、田村堅志、手束聡子、中戸晃之、万福裕造、宮元展義、毛利恵美子、鈴木憲子

監事（1 名）：志々目正高

オブザーバー：蝦名武雄、藤村卓也

理事以外の常務委員（4 名）：川俣 純、森本和也、佐久間博、樽田誠一

事務局：川島朝子

成立確認：理事総数 27 名の半数 14 名、出席理事 23 名で理事会の開催は成立

審議事項

1. 2022 年度事業報告（資料 1：2022 年度総会議案書（案）の第 1 号議案）

資料をもとに各担当委員から報告があった（粘土科学については日比野編集委員長が欠席のため、佐藤常務委員長より報告）。手束庶務委員より誤字の訂正と別ファイルで示された会費未納者についての情報提供が求められた。

2. 2022 年度収支決算報告及び監査報告（資料 2：2022 年度総会議案書（案）の第 2 号議案）

伊藤会計委員から資料をもとに報告があった。著作権使用料は定額制となったので昨年度までと比べて増額となっている。また、学会誌事業は赤字だが、その他の部分の努力の結果、単年度では黒字であったとの報告があった。委託販売・購読収入の減少があるので、紙媒体での発行数の検討と、バックナンバーの販売がほとんど無いので保管費節約のために在庫についての再考が必要であるとの見解が示された。資産は増加傾向であるので、今後の記念事業などを踏まえて、学術振興積立金の目標額の設定が提言された。

志々目監事より監査報告があった。本年度の活動に問題はないが、現在の収入増は討論会に依存する部分が多い。LOC に負担が掛からないようにするためにも会員増、魅力ある学会活動など収入増となる施策を検討する必要がある。そのためのプロジェクトチームなどを発足させる時期ではないかとの意見が示された。また学術振興積立金について伊藤会計委員と同様のアドバイスがあった。

3. 2023 年度事業計画（資料 3：2022 年度総会議案書（案）の第 3 号議案）

資料をもとに各担当委員から報告があった（粘土科学については日比野編集委員長が欠席のため、佐藤常務委員長より報告）。第 65 回粘土科学討論会の懇親会について、後の議論での決定後に修正を加えるとの説明が笹井実行委員長からあった。表彰について佐藤常務委員長より、本年度は功績賞が授与できなかったのが、来年度はすべての賞を推薦したいということであった。研究促進について佐藤常務委員長より新しく 2 つのグループが活動を始めるので、学会誌にも投稿をお願いしてはどうかという意見が出された。更に佐藤常務委員長より、常務委員会・理事会は例年通り開催を予定しているが、第 4 回については討論会の開催日に因っては前倒しとなる可能性が指摘された。資料中の第 1 回理事会の日程を 9/8 から 9/7 に

訂正した。

4. 2023 年度収支予算（資料 4：2022 年度総会議案書（案）の第 4 号議案）

伊藤会計委員より資料にもとづき説明があった。会費収入は 7 月末会員数で算出をした。おおむね例年通りの予算である。

5. 2022 年度総会の日時、場所、議案及びその内容（資料 5：2022 年度総会議案書（案）の第 5～8 号議案及び報告事項）

佐藤常務委員長より資料をもとに説明があった。

6. 2022 年度総会の準備、進行等（資料 6）

佐藤常務委員長より資料をもとに説明があり、各自の役割などを確認した。

7. 2022 年度表彰式の進行（資料 7）

佐藤常務委員長より資料をもとに、説明があった。学術振興賞の選考報告については、山崎学術積立金運営委員長が欠席の場合は、佐藤常務委員長が代役を務めることとした。写真撮影については、「渉外委員」で受け持つことに訂正した。

8. 第 65 回粘土科学討論会について（資料 8）

懇親会の開催について、笹井実行委員長から説明があった。島根県の要請に従って懇親会をすることは可能であるが、「黙食」「席移動は控える」などを遵守することは懇親会の本来の目的である情報交換を十分に行えるとは思われないので、懇親会を中止したいとの提案があり了承された。これに伴い、日程表の訂正部分が説明された。また、案内には検温などの感染対策に関する文言を加えることとした。

参加キャンセルの申し出が 1 件報告された。現在はキャンセルポリシーがないので、来年以降検討が必要との指摘があった。

参加予定者には、朝宿泊先で検温をするなど体調管理に配慮してもらうこと、会場ではマスクを常に着用することを通知し、また食事場所の情報提供に加えて、島根県の要請（4 名以内で 2 時間以内など）を当日配布することとした。

9. 2023 年度以降の粘土科学討論会の開催形式について

オブザーバー参加の蝦名実行委員長より、第 66 回粘土科学討論会の開催概要について説明があった。日程は 9/11 の週を予定しているが、できるだけたくさんの人に仙台に来て欲しいので、他学会の情報などについて、今月中をめどに蝦名実行委員長あてに連絡することとした。

ハイブリッド開催に関する議論をし、以下のような意見が出された。

- ・ 専門業者に頼むと経費がかかる。
- ・ Zoom などで行おうとすると、音声の面で不具合が生じる。
- ・ 座長がモニター音を聞きながら進行すれば可能である。
- ・ 対面だけの学会は避けられる傾向があるので、参加者を増やすにはハイブリッドが有利。
- ・ 会員数が減少している昨今、門戸は大きく開いておいた方がよい。
- ・ 感染症だけでなく、経費の面でもリモート学会を選ぶように言われる場合がある。

第 66 回に関しては、ハイブリッド開催も計画しているとして総会で報告することとした。

小暮会長から、学会の参加登録費をカード払いにすることを考えてはどうかという発言があった。今後はキャッシュレスを進めていく必要があり、手数料が抑えられるような情報があったら教えて欲しいとの要請があった。

10. その他

特になし。

以上、審議の上、承認された。

報告事項

1. 研究グループの活動報告（資料9）

代表の井出理事から活動報告があった。

2. その他

特になし。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、代表理事及び監事がこれに記名押印する。

令和4年8月16日

一般社団法人日本粘土学会 理事会

代表理事（会長） 小暮敏博 ⑩

代表理事（副会長） 中川昌治 ⑩

監事 志々目正高 ⑩

監事 月村勝宏 ⑩